

国語教材としての狂言の可能性

『実用的狂言会話集』の作成をめぐって

名古屋中学・高等学校 佐藤 和道

2006年の教育基本法改正以後、伝統文化に関する教育の充実が求められるようになった。この方針は、現行学習指導要領においても継続されており、国語科では、小学校高学年から「古典」に親しみ、学ぶことが示されている。

なかでも、能・狂言は、古典芸能の代表的ジャンルの一つとされ、各段階において学ぶべき教材として選出されている¹⁾。大幅に刷新された高等学校の国語においても、新設された「言語文化」「文学国語」「古典探究」のそれぞれに教材例として挙げられている。

しかし、実際の国語教科書における採録状況は芳しいものではない。『風姿花伝』などの能楽論や、コラムや付録で付随的に取り扱われる場合を除けば、能の作品（謡曲）が国語教科書に取り上げられることはほとんどない。

これに対し、狂言は、『附子』『柿山伏』『盆山』などが、小学校高学年や中学校の教科書に掲載されている。これらの作品を実際に授業で扱うかどうかは、担当教員の裁量によるものの、少なくとも教科書のレベルでは、小・中学生の

うちに一度は目に触れることができる状況にある。これは、狂言が能に比べて、平易で理解しやすいことや、野村萬斎のように一般にも広く知られた狂言師の存在が影響しているよう²⁾。

こうした状況を受け、筆者は、国語教材としての狂言の可能性を探るべく、科学研究費補助金（奨励研究・JP22H04002）の助成を受け、『実用的狂言会話集』と題する冊子の作成に取り組んだ。以下で、その概要を紹介したい。

一、狂言を教材とすることの意義

狂言は室町時代に大成された能と同時期に成立し、能とともに演じられる。能に比べ上演時間や人数の規模が小さく、内容が平易で、滑稽なものが多いため、初めて見る人でも分かりやすいのが特徴である。

また、能が節（メロディー）のある謡を中心とするのに対し、狂言は通常の演劇やドラマと同じようにセリフが中心である。発声も大げさに誇張して表現されるので、能に比べて聞きとりやすいといえる。

能・狂言の相違点³⁾

	上演時間	上演人数	スタイル	仮面（能面）の使用
能	60～120分	15名～20名 (地謡・囃子を含む)	音楽劇 (歌舞劇)	現実の男性の役を除き原則使用
狂言	20～30分	2～3名 (10名弱が登場するものもある)	セリフ劇	神・鬼・老人・女などの役を除き原則不使用

現存する最古の狂言台本は、安土桃山時代にまでさかのぼることができるが、現在上演に使われているものは、そこから改変を経たものである。それでも、狂言の芸は、原則として師匠から弟子へ口頭で伝承されてきたため、中世に実際に話されていた庶民の会話が、ある程度当時に近い形で保存されていると考えられる⁴。教科書でおなじみの『源氏物語』や『枕草子』『徒然草』などが、いずれも書き言葉であるのに対し、狂言の台本は、記録として残すことが難しい、当時の話し言葉を知ることができる貴重な資料なのである。こうした点から、狂言は、日本の言語文化の豊かさを学ぶ上で、格好の教材ということができよう。

二、『実用的狂言会話集』作成のコンセプト

狂言は、能に比べれば短いとはいえ、一曲のセリフを全文掲載すると、かなりの分量になる。現行の国語教科書の中には、全文を掲載せず、オチにあたる結末部を資料編に別載するなどの工夫をしているものもある⁵。

そこで本会話集でも、狂言特有の言い回しや、特徴的なやりとりを中心に、抜粋して掲載することとした。また、書名に「実用的」と冠したように、なるべく現代の私たちが日常生活の中で出会う場面を想定し、それに近い場面を選ぶよう心がけた。加えて、各単元の末尾には、セリフの一部を別の単語に置き換えるなどして、

新たな会話を創作する部分（『練習』）を設けている。これには、古典芸能である狂言が、現代に通じる存在であることを理解してもらいたいというねらいがある。

さらに、実際の狂言の発音を再現することができるように、和泉流狂言師の鹿島俊裕師に協力を仰ぎ、会話集に掲載したセリフの模範音声・演技を収録した⁶。これらは、各単元冒頭に掲載した二次元コードを通じて再生することができる。

三、本書の構成・内容

本書は以下のような構成からなる。

- 1 名乗り（自己紹介）
 - 2 あいさつ
 - 3 笑う・泣く・怒る
 - 4 でかける・帰る
 - 5 食べる・飲む
 - 6 眠る
 - 7 買い物
 - 8 出かける（2）
 - 9 勉強
 - 10 病気・怪我
 - 11 応用
- （『附子』ほか）
（『末広がり』）
（『福の神』）
（『伊呂波』）
（『雷』）
（『蝸牛』）

このうち1～4は、特定の演目ではなく、狂言で広く使われる表現を単元ごとに配置したものである。

のである。

例えば、「1 名乗り」は、

・このあたりのものでござる。

・大果報の者でござる。

・はるか遠国の大名。

・この寺の住持でござる。

・ところの山伏です。

・このころのすぐれないものでござる。

のように、狂言で登場する様々な役柄が最初に述べる、「名乗り」というセリフを掲載している。これらのセリフの後に、以下のような【練習】を付している。

【練習】□に自分の名前を入れてみよう。

・これは、このあたりに住まいいたす□と申すものでござる。

（私はこの辺に住んでいる□という人です。）

本単元では、狂言の発音・セリフの特徴を学んだ後、それを使って自己紹介をすることを目標としている。

中盤の「5」以降は、実際の狂言の演目から、単元に応じた場面のセリフを抜粋して掲載する。例えば、「7 買い物」は、狂言『末広がり』の太郎冠者が買い物に行く場面である。

狂言『末広がり』は、「末広がり（扇）」を買いに行くように頼まれた太郎冠者が、それが何かを知らないままに使いに出たために、都のすっぱ（詐欺師）にだまされて、古い傘を買わざ

れてしまふという筋である。以下に掲げるのは都に出た太郎冠者と末広がりの屋の亭主を名乗るすっぱの会話である。

亭主(すっぱ) .. その通りです。

太郎冠者
..しし申し、そこもとに末広がりがり

屋はござらぬか。末広がりが求めとうござる。末広がり買おう、末広がりに買います。

亭主(すっぱ)・・洛中に人多しとは言えども、そ

亭主は、みども一人でおりやる
..や、あの、あなたが末広がり屋
の御亭主でござるか。

亭主(すっぱ)..
なかなか。

太郎冠者

すればみどもは幸せ者でござる
 そうあらばその末広がりが求め
 とうござる。見せてくだされ。

亭主(すっぱ) .. おっつけ見しよう。しばらくそ

れにお待ちやれ。

(現代語訳)

太郎冠者

もしもしこのあたりに末広がり
屋はありませんか。末広がり
買いたいです。末広がりを買
いましょう。

亭主(すっぱ)

都には大勢の人がいますが、あなたの探している末広がり屋は私一人です。

太郎冠者

.. おや。あなたが末広がり屋さん

本単元の【練習】では、会話の中の「末広がり」を自分の欲しいものに置き換えて、買ひ物のやりとりを演じることを課している。例えば「末広がり」を「ハンバーガー」に変えれば、以下のような会話になる。

A..しし申し、そこもとにハンバーガー屋はご

しし申し、そこもとにハンバーガー屋はござらぬか。ハンバーガーが求めとうござる。

ハンバーガー買おう、ハンバーガー買います。

B : 洛中に人多しとは言えども、そなたのお尋にやるハンバーガー屋の亭主は、みども一人でおやりやる。

A..や、あの、こなたがハンバーガー屋の御亭

主でござるか。

B..
なかなか。

A..すればみどもは幸せ者でござる。そうあらばそのハンバーガーが求めとうござる。見せてくだされ。

実際に生徒に実践してもらったところ、プ

「レステ」や「アップルウォッチ」など、通常の狂言には登場しないような品物が多くあげられた。このように、一見すると狂言とは相容れないような品物であっても、十分に会話を成立さ

せることが可能である。

さらに、「11 応用」では、ここまでの單元で学んだ様々な会話を組み合わせて新たに創作した例を示している。例えば、「6 眠る」で示した山伏が目覚めます場面（『蝸牛』、「4 でかける」における客と主人との応対の場面（該当作多数）、「8 出かける（2）」の道行（ある場所からある場所への移動、『福の神』）のセリフを組み合わせることで、朝起きた生徒が、迎えに来た友達と一緒に学校へ行くという場面を作り出すことができる。

A…ム、ム、ムーウ、よう寝たことかな。

B ..ものもう。案内もう。

A.. いや表に案内がある。案内とは誰ぞ。

B
.. 私でごさる。

A .. えい、太郎くん。何として来た。

B.. 学校へ参りますまいか。

A .. ようござろう。

B
..
いざござれ。

A .. 私から参りましょうか。

B .. 一段とようござろう。

A:..まことに、かように毎日毎日相まわらず、
息災でご同道申すと言うは、めでたい事では
ござらぬか。

B.. 言わせらるる通り、このような喜ばしい事

はぐざらぬ。

A.. いや、何かと言ううちに学校でござる。

B..まことに学校でござる。

右の会話例は、傍線を引いた部分（太郎くん・学校）以外は、もともとある狂言のセリフをそのまま使っている。このように最小限の改変であっても、組み合わせ次第で新しい会話を創作することが可能である。

四、本書を用いた学習方法

本書は、小学校高学年から高校生までの幅広い学習層を想定している。たとえば、小学校高学年であれば、「1〜4」の短文を練習し、友達同士で、自己紹介や挨拶などをする活動が中心になるだろう。中学生であれば、5以降の比較的長い会話を扱うこともできると思われる。さらに、高校生であれば、狂言風の寸劇（コント）創作に挑戦してもよいだろう。本書に掲載した場面だけでは限りがあるが、単元に示された会話を参考にして、自分たちで新しい場面を創作することができれば、簡単な演劇にまで発展させることができるはずである。

おわりに

『高等学校学習指導要領解説 国語編』の「言語文化」には、次のような記述が見える。

例えば、「明日は試験だ。」という発話は、「明日、何か予定あるの。」という相手の発話に対する回答であれば、明日試験があるという事実を意味しているが、「今夜、映画を見に行こう。」という相手の誘いに対する回答

であれば、誘いを断る意味を表すことにもなる。このように、話し手と聞き手の状況や場面が、文脈を作り、その文脈が話の意味を異なるものになっているのである。（中略）狂言や落語などには、文脈による文の意味の取り違えをモチーフとした笑いの言語文化として成立しているものもある⁷。

右の指摘は、狂言や落語にみられる「文脈の取り違え」といった要素が、現代の私たちの会話の中にも息づいていることを示したものである。「言語文化」は、古典と近代以降の文章を横断的に学習することで、両者が隔絶した存在ではないことを理解し、言語文化を継承する担い手を育成する意図があると考えられる。狂言は、現代社会に通じる側面が多く、その意味では、国語教材としての可能性を大いに秘めた存在といえるだろう。

なお、『実用的狂言会話集』は、PDFデータを以下に掲載した二次元コードのリンク先から自由にダウンロードすることができる（リンク先は、researchmap.jp）。さまざまな活動でご利用いただき、実践例や改善点などをご教示いただければ幸いである。



1 小学校・中学校・高等学校の『学習指導要領解説 国語編』（文部科学省、2017年・2018年）による。

2 野村萬斎（狂言方泉流、万作の会所属）は国語科・音楽科など、伝統芸能を扱う科目においてしばしば取り上げられており、その認知度の高さがうかがえる。

3 上演時間・人数等は一般的なものであり、全ての作品に当てはまるわけではない。

4 坂本清恵「狂言の音声復元」（『能と狂言』5号、ベリカン社、2007年）。

5 『みんなと学ぶ 小学校国語 六年下』学校図書出版、2020年。

6 和泉流狂言共同社所属。1995年初舞台。2019年『釣狐』初演。2021年、名古屋市芸術創造賞受賞。なお本冊子掲載の台本は、鹿島師の所属する狂言共同社のものに準じた。

7 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編』文部科学省、2018年。

実用的 むかしの言葉で話してみよう！

狂言会話集



実用的狂言会話集